

令和元年度修了式に寄せて

コロナウイルスの感染拡大のため、急に1年の終わりを迎えることになり、やりきれない気持ちを抱いていることと思います。しかし、この状況は、みんなで乗り越えるしかないのだと思います。自分ではどうにもならないことで勉強や生活、部活動など不自由を感じ、できないことをその理由にしがちです。しかし、見方を変えれば「ピンチはチャンス」と捉えることができるかもしれません。15世紀頃のヨーロッパでは、ペストが流行し多くの方が亡くなり、街が荒廃していく中、あのコロンブスは、希望を新天地に求めて航海に出てアメリカ大陸を発見したとされています。逆境のような状況を絶好の機会と考えて乗り越えることで、より自分を成長させることにつながることもあります。

さて、1. 2年生の皆さん、卒業する3年生の姿を見て何を感じていますか？

体育大会のソーラン節の演技で見せた切れや迫力、あやぐも祭での学級のプライドをかけて仲間と創り上げたハーモニー、磐周大会での接戦の末に勝利をたぐり寄せた粘り強さ、授業で「こうじゃない、あーじゃない」と学び合う姿、生活の中で時を守る姿勢など、3年生が中心となって1. 2年生を巻き込んで「魅力ある学校づくり」が進められたと感じているのではないのでしょうか。特に、安定した教育活動が進められたのは、3年生一人一人が、集団生活のマナーやルールを身につけるとともに、善悪の判断や思いやりの心など、生きていくために必要な根っこの部分を大切にしてきたからだと思います。

令和2年度がもうすぐスタートします。来年度、先輩から受け継いだ宝物をどう受け継ぎ、後輩にどう託すのか、とても楽しみです。先輩の姿を見て、あんなことも、こんなこともと考えると思いますが、バトンパスは、少しずつもう始まっていることに気づいていますか。先日実施した「ピンクシャツデー2020」は、自分たちの手で少しでもいじめでつらい思いをする人を少なくするために、自分にできることをしようと生徒会の呼びかけに、ピンクの輪が2年生に、1年生に広がっていきました。理解してもらえる仲間を増やすことは簡単なことではありませんが、先輩から受け継いだものを自分たちで考え、自分たちにできることを行動に移すことができたと思います。

もう一つ、「体育大会プロジェクト」です。来年度、幼小中一貫教育「袋井あやぐも学園」がスタートする年に、みんなが誇りを持てる体育大会を自分たちで考え自分たちの手で運営できるようプロジェクト委員の話し合いが続けられています。きっと、生徒一人一人が出会いの楽しさを感じ、先輩から受け継いだ伝統を活かした「新生袋井中」の体育大会を創り上げることができると思います。そして、みんなが力を合わせれば、「自分で考えて人のために汗を流す主体的な生徒」のバトンを、本校の伝統として自信を持って引き継ぐことにつながるはずです。1. 2年生の皆さんに、大いに期待しています。

令和2年3月吉日

袋井市立袋井中学校
校長 加藤 貞美